

絆 沖縄

第
73
号

編集・発行



社会福祉法人
沖縄県社会福祉事業団

〒903-0804
那覇市首里石嶺町 4 丁目 373 番地 1
TEL: 098-884-3173 (代) FAX: 098-882-5688

mail: o.fukusi@okinawa-j.jp HP: http://www.okinawa-j.jp/



■新ホームページより抜粋■



新年度を迎えて

理事長 金城 敏彦
きんじょう としひこ

うららかな春から初夏の気配も感じるこの頃、皆様におかれましては益々ご健勝のことをお喜び申し上げます。当事業団の事業運営につきまして、日頃よりご理解とご協力をいただき厚くお礼を申し上げます。

さて、改正社会福祉法が今年度から完全施行されました。

当事業団も早速、新評議員・理事・全施設長を招集し、事業団の設立時の目的、社会福祉基礎構造改革、改正 46 通知、自治法改正による指定管理者制度の導入など時代の変革とともに大きく社会経済の姿が変わり自主経営に移行した経緯やその後の 10 年間の経営状況、経営計画の進捗状況について検証と今後の法人のあり方について意見交換会を実施致しました。

先輩たちの優れた実践といいをあらためて確認し、そして、健全・経営によるさらなる実践を通して次代に引き継いでいかなければならぬという思いをあらためて決意致しました。

社会福祉に対する国民の期待も多様化している今、経営理念と経営方針を実現するた

めに福祉事業を通して利用者の皆様をはじめ、提供するサービスを必要とする地域の方々に貢献できる人材を育成し、地域との繋がりを構築しこれらの課題に取り組んでまいります。

このような取り組みにより、職員が安心して業務に専念することができ、スキルアップが自信に繋がり、質の高い福祉サービスを継続して提供するとともに、制度の狭間にある多様な福祉ニーズに積極的に対応できる法人の強化に繋がるものと考えています。

今後も、変化をおそれず、やはり一層地域にとつてなくてはならない存在となるよう、「沖縄県社会福祉事業団」だからできることを念頭に置き、その使命を果たして参りたいと考えておりますので、皆様には、なお一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

ユマニチユード研修



養護・特別養護老人ホーム
八重山厚生園

副園長 仲里 みづえ
なかざと みづえ

同席した家族や本人に話しかけつつ、彼女の歴史や何が好きで何を大切にしていたかを聞き出し、その上で時間をかけゆっくりと接していると、実際に暴力的で笑顔の無かった利用者が1時間の施術で、好きだった踊りを思い出し、衣装を着て笑みを浮かべて踊り出した姿を見て皆感動、家族も涙を浮かべ喜ばれています。

優しさと愛を持つて接すれば変わる。翌日腰をかがめ肩に触れつつ話しかける介護員の姿を多く見かけました。

認知症は、高齢化を迎えるこれから地域社会の課題に挙げられ、また介護に関わる私たちの学ぶべき介護ケアの一つです。

ケア現場の映像を使用した講演で、ユマニチユードとはヒューマン＝人間を中心に据えた技法で、「見る」「話す」「触れる」「立つ」という人間の持つ特性に働きかけることにより、ケアを受けた人に「自分が人間であることを思い出し、その絆により信頼感が生まれ、周辺行動が改善するとの説明でした。翌日は八重山厚生園で介護拒否の強い認知症の方のケアの実習が行われ、



認知症講演会

イブ・ジネスト先生
通訳・国際医療センター総合内科
医長 本田美和子先生
後援・石垣市
・認知症の人を支える市民の会うつくみ会



救護施設
よみたん救護園
精神保健福祉士 崎原 あおい
さきはら あおい

「三つの眼」を常に自分に問いかけ、仲間と共有していく

障害者虐待防止リーダー研修

平成29年1月10日～11日の2日間に渡り、「平成28年度障害者虐待防止リーダー職員研修」に参加しました。昨今はテレビや新聞で報道されるように障害者施設職員による暴行事件等痛ましい事件がおきています。私たちの支援の根底となる「基本的な人権の尊重」をどう考えるのか?大きなテーマを掲げ研修に挑みました。

障害者権利条約・障害者基本法など権利擁護に関する施策と動向、平成24年10月に施行された障害者虐待防止法の概要についての説明がありました。「虐待」の時点で取り上げるのではなく、「虐待の芽」をみんなで感じる力を高め虐待を防止する、通報の義務付けなど「虐待防止」を強く国民に求めていた。これまでの虐待事例を振り返る中で外部からの眼が届きにくい施設内で普通ならやらないことが常態化してしまうことがあるという表現がなされ

ていました、「虐待の芽」をどう感じ、高めることができるのか?私たちが持つ専門性を發揮する時だと感じています。利用者支援の要「個別支援計画」を専門職としてアセスメント・モニタリングできているのか?リスクマネジメントの視点、ヒヤリとしたり、ハッとした時に職員で支援の知恵を出し合っているのか?新しい会議や対策をどうやって実施してきたツールを活用し、まず私たちが振り返るべき地点が見えてきました。

最後に、日々の支援の中で、利用者の家族、そして自分の職場の特に同じ専門職としての仲間や後輩、上司がその場においても同じような言葉遣いや顔つきでいられるか。特に子どもの前でこれがお父さんのプロとしての仕事だよ、これがお母さんの専門職としての仕事なのよと胸を張ってみせられるか?研修の中で最も印象に残ったこの「三つの眼」を常に自分に問いかけながら從事し一緒に働く仲間と共有していきました。

施設の性質上、なかなか表舞台には出ない婦人保護施設でも丁寧なカウンセリングを軸とした就労支援が展開されています。それぞれの施設の働くよろこびを伝える写真にもぜひご注目下さい。

平成23年に当法人初の就労継続支援B型事業所として事業を開始した「あけぼの学園」の即売会では、生産した野菜や花々が人気です。

今回は、はたらく特集として、5分野12施設ある当法人の中から、3つの施設（事業所）をご紹介いたします。

3者とも、個性豊かなメンバーが、家族や地域のみなさま、近隣企業や関係機関に支えられ、交流しながら、活躍しています。

は・た・ら・く・特集!!



障害者支援施設 あけばの学園

働くことに喜びを



障害者支援施設 北嶺学園

就労Bについて



◆利用者の作品◆



商品化に向けた小物類

婦人保護施設における就労支援の実践

当寮が目標とする就労支援は、本人の個性特性を生かし、継続就労が可能な雇用先を確保することです。入所後に障害が判明する方も少なくなく、対人関係が不得意な方や短期間で転職を繰り返している経緯から、利用者の多くは焦りや不安を抱えています。

各ケースの課題克服に添った支援計画及びカウンセリングを重ね社会参加できる土台を構築し、利用者の幅広い個性に対応する為、協力雇用主の開拓や社協との連携にも力を入れています。

これまで制度の障壁により、利用不可となっていた「障害者総合支援法（就労支援移行）」の活用についても関係機関と調整を重ね今年から利用可能となり、本人の特性を生かしたきめ細かい職業訓練が実施され社会復帰の足がかりとなり利用者の自信回復に繋がっています。

「将来を見据えた支援」を理念に、退所後地域で孤立しないよう、環境調整を踏まえた職業支援を実施しています。



婦人保護施設における就労支援の実践



◆利用者の作品◆



商品化に向けた小物類

婦人保護施設における就労支援の実践

実践活動発表会について

実践発表を終えて

今年度も「日頃の利用者支援や運営管理等についての実践の成果を発表することで各施設の活動を理解してもらうと共に職員の創意工夫力を高める」ことを目的に、平成29年2月3日（金）、浦添市産業振興センター結の街・大ホールにおいて、沖縄県社会福祉事業団実践活動発表会を開催しました。

発表内容

障害者支援施設 北嶺学園

「整備が必要な環境下で機能低下していく利用者の支援について」

婦人保護施設

「婦人保護施設におけるメンタルケアについて」

◆特別養護・養護老人ホーム 具志川厚生園

「環境美化について」

◆救護施設 よみたん救護園

「救護園利用者の喫煙に関する取組」

「社会福祉法人制度改革について」をテーマとした特別講話では、全参加者が各自の施設に照らし合わせながら聞き入る様子がみられ、質疑応答においても活発な質問が出されました。



養護・特別養護老人ホーム
具志川厚生園
介護員 大見 幸成

具志川厚生園では今回、「環境美化」に関する実践を発表しましたが、発表内容をまとめる段階になつて初めて、初めて、実際にまだ上手く取り組めていない部分に気づくこともあり、発表する不安もありました。しかし、今後も継続してしっかりと活動を行う事が出来るよう、決意の意味も込めて発表する事としました。

本番では、緊張から口調も早くなってしまいましたが、130人を超える会場での発表はよい経験となりました。質疑応答では、予測していた質問ではなくことが難しい視点からの質問は学びに繋がりましたが、自施設だけでは気づくことが難しい視点からの質問は学びに繋がりましたし、メンバーとのチームワークは大きな財産となりました。

当施設での活動内容や上手く取り組めなかつた課題等が、少しでも他施設での環境美化活動の取り組みの参考になり、皆で切磋琢磨しながら、法人全体のサービスの質の向上に繋がればと思います。

2月6日、取材スタッフ3名（ディレクター、カメラ、音声）が来園、30分程の簡単な打ち合わせを済ませると直ぐに施設での普段の日課の様子を撮影。2月7日はフィードバック会議での入力データの比較・分析等会議の様子を撮影、2月8日はフィードバック会議で共有したベテランの「気づき」を実践している新人職員の様子と個別のインタビューで3日間の取材が終了。カメラを意識して緊張感に包まれた3日間でした。

取材3日間の様子は、平成29年3月3日7時20分からNHK「おはよう日本」「解き明かせるか ベテランの知恵」とのタイトルで、長年経験を積んできたベテランが培ってきた『判断力』や『気づき』をICT活用でデータ

いできませんか？」とNHK「おはよう日本」担当ディレクターからの突然の取材依頼の電話に、普段どおり取材してもらえばいいよと、・・・平良園長は余裕の笑顔で取材をOK。

取材の依頼電話から取材当日まで5日間と期間が短く急にも関わらず、相談員・ケアマネは家族へ撮影同意の電話連絡を速やかに対応し、現場ではいつもより入り口清掃や花を飾るなど

取材受入れにむけてしっかりと準備を整えた。

2月6日、取材スタッフ3名（ディレクター、カメラ、音声）が来園、30分程の簡単な打ち合わせを済ませると直ぐに施設での普段の日課の様子を撮影。2月7日はフィードバック会議での入力データの比較・分析等会議の様子を撮影、2月8日はフィードバック会議で共有したベテランの「気づき」を実践している新人職員の様子と個別のインタビューで3日間の取材が終了。カメラを意識して緊張感に包まれた3日間でした。

化し、目に見えるようして人材育成に活用しようと取り組んでいる宮古厚生園が約5分放送されました。



退職者あいさつ



特別養護・養護老人ホーム
名護厚生園

副園長 比嘉 克也

32年間の障がい者施設勤務から、名護厚生園に移りアットいいう間の6年が過ぎました。介護福祉士を取得し、いつかは介護老人福祉施設での勤務を考えていた所に、ご縁があり入職したことを思い出します。

名護厚生園ではとても楽しませていただいており、現在、利用者様5名と同級生会と称して、1日1回は時間を共に、みんなで大笑いしています。職員からは、違和感なく溶け込んでいるといわれています。

また職員とはこれまで野球・ゴルフ・バンド等の活動をしてきましたが、現在はボウリングやくらぶ部を結成し、名桜ボウルの木曜リーグに参加しています。みんなでフォームチェックしながらレベルアップを図り、優勝もそう遠くないと思います。これからは、定年後の再雇用ですが充実した1年を過ごせよう頑張ります。6年間ありがとうございました。

またこれから1年間よろしくお願いします。



医療型障害児入所施設

准看護師 翁長 信子

沖縄療育園へ就職して4年間と短い期間でしたが、定年まで働く事ができ、感謝と共に嬉しく思います。当時、戸惑いながら業務をこなすのが精いっぱいでしたが、諸先輩、同僚の皆様の良きアドバイスに支えられ務める事が出来ました。介護スタッフの個別生活支援が充実しており、特に口腔ケアや、食事介助など、寧におこなっているのを見て感動しました。毎日、利用者に関わり合い信頼関係があるから出来る事だと感じました。

私は看護業務を務め、利用者の一人が感染症を発症すると感染が拡大する事もあり、大変な思いで業務を務めた事を思い出します。日々の健康管理の大切さを痛感しました。利用者の弱い面とたくましく生きる姿を見て、感動し学ぶことができました。

今後再雇用として仕事を続ける事になり、健康に気をつけ、気持ちを新たに頑張りたいと思います。

最後に皆様方の健康をお祈り申しあげます。

ありがとうございます。

明けには、帰宅途中、睡魔におそわれる事もあり、道端で仮眠し帰宅することしばしばありました。今では、懐かしい思い出となっております。

それぞれの職場で、諸先輩、同僚、後輩の皆様に支えでもらい、定年退職を迎えることができ心から感謝しております。

最後になりますが事業団の益々のご発展と職員の皆様のご健康のご活躍をお祈り申し上げます。



救護施設

よみたん救護園
介護員 平誠 咲子

月日が流れるのを早く感じるこの頃、昭和60年10月に、厨房職員としてよみたん救護園に採用され、都屋の里、具志川厚生病院と15年6ヶ月厨房業務に携わり、その後、業務委託に伴い、まさかの介護職へと職種変更、自分にはこの仕事が出来るのかなど戸惑いながら、職員の良きアドバイスを受けながら、具志川厚生病院、名護厚生園、よみたん救護園と16年間無事務める事が出来ました。転勤することにたくさんの職員に出会えたこと、たくさんの利用者様と方言でユンタクしたり、カチャーシーを踊ったり、懐かしく思い起されます。スタート地点のよみたん救護園で定年を迎える事が出来たこと、これまでに支えてくれた皆様方のお陰です。本当に感謝いたします。これからも事業団の発展、皆様方の健康を祈念申し上げます。

ありがとうございました。



障害者支援施設

都屋の里

介護員 比嘉 妙美

昭和54年7月、よみたん救護園の寮母として採用され、具志川厚生園、名護厚生園、都屋の里の4施設を6回の転勤を繰り返し、27年8ヶ月が経ちました。

名護厚生園で勤務していたころ、北中城村から名護厚生園迄通勤1時間半の遠距離通勤はとても大変でした。深夜



退職者あいさつ

特別養護・養護老人ホーム
宮古厚生園 訪問介護事業所

サービス提供責任者 太田とも子

宮古島が大好きで、平成18年に神戸市より移住してきました。

宮古島に来て最初に勤務したのが、宮古厚生園でした。10年になります。(介護8年、訪問介護2年)離島ですが、システム化・会議等進んでいるなあというのが印象でした。

介護は大変な面もありましたが、職員が明るく樂しく仕事ができました。訪問介護も新しい利用者様・ヘルパーさんとの出会いがあり、楽しくいい勉強をさせて頂いています。

今まで、福祉の仕事で子ども、障がい者、高齢者の方々と関わることが出来て幸せを感じます。

そして、いつもまわりに支えて下さる人達がいたから、今まで頑張れたと思います。

特別養護・養護老人ホーム
八重山厚生園

介護員 土井正三

平成20年6月介護員として八重山厚生園に採用され、3月末日をもって定年退職を迎えることになりました。振り返れば、介護員の仕事は思った以上大変な仕事で幾度も挫折しそうになりました。

そんな時に職場の同僚達に励まされ、支えられ助け合いながら過ぎていった9年でした。

これから新たな人生が再スタートしますが、体の続く限り社会に貢献出来るような仕事に携わっていければと思っています。

最後に、事業団のさらなる発展と皆様のご健康を祈念申し上げます。

特別養護・養護老人ホーム
八重山厚生園

介護課長 古見嘉浩

本年度から八重山厚生園でも介護課が新設され、3課体制となりました。利用者支援の充実や人材育成の強化のため研修委員会を立ち上げ、色々な課題を解決して行きたないと考えています。

これからも、地域に根ざし、地域の為に、地域と共に、地域に愛される施設を目指して職員一丸となつて頑張ります。

NEW 介護課新設!!

特別養護・養護老人ホーム
宮古厚生園

介護課長 久志多美子

介護課長拝命にあたり、介護現場で培ってきた経験を活かし、現場における問題点や課題を一つ一つクリアしながら明るく楽しく働きやすい職場を目指に職場の活性化を図っていきます。

また、業務標準に基づいた課題抽出や研修制度の検討を図り職員のスキル向上に向けた取り組みを行うことで、ご利用者様・ご家族様の視点に立ったサービスの提供に努め、地域の皆さんに信頼され選ばれる施設となるよう尽力していきたいと思います。

平成29年度人事異動

沖縄療育園

看護課長 當間久美子

(昇任 沖縄療育園看護師)

育成課長 多和田綾子

(昇任 沖縄療育園児童指導員)

サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者)

漲水学園

園長 奥原一秀(昇任 涨水学園副園長)

具志川厚生園

管理課長 花城裕康(沖縄療育園育成課長)

介護課長 久志多美子(昇任 宮古厚生園)

介護支援専門員

宮古厚生園

介護課長 久志多美子(昇任 宮古厚生園)

介護支援専門員

八重山厚生園

介護課長 吉見嘉浩(昇任 八重山厚生園)

介護員



平成29年度 沖縄県社会福祉事業団 事業計画書

(主な内容を記載)

1. 利用者に対する姿勢

①各施設の管理職は経営理念等を深く理解し、全職員が同じ価値観・方向性を持ち業務に就けるよう職務会・職場内研修・個別ヒヤリング等の機会を積極的に活用し、経営理念等の周知を図る。

②各施設は、苦情に対しても苦情対応要綱に基づいた迅速かつ適切な対応ができるよう全職員にその内容の周知を図ると共に定期的に勉強会を行う。

③事務局及び各施設は、施設種別ごとに標準的なサービスを提供できるよう業務標準書における標準的な業務の運用を行いサービスの質の向上を図り、必要に応じて見直しを行う。

④よみたん救護園において第三者評価を受審する。
 ⑤名護厚生園は、科学技術振興機構による支援事業の実証施設として、ICTを活用した介護サービスに取り組み、利用者の状況変化に適した気づき力を高めサービスの質を高めると共に、新人教育等での人材育成に繋げる。
 ⑥にしのもり保育園は、石垣市から29年度内での0歳児及び1歳児の事業開始の要請もあることから保育土確保も勘案し沖縄県と認可に関する協議を行う。

2. 社会に対する姿勢

①事務局は、沖縄県社会福祉協議会が示した「県内法人の地域における公益的な取組指針」に基づき、法人内での地域住民の福祉・生活課題に関する相談・支援体制の整備に取り組む。

②名護厚生園・具志川厚生園・宮古厚生園は、地域の行政と連携し養護老人ホームの空き部屋を活用した生活困窮者支援事業を継続する。

③漲水学園は、施設機能を活用した生活困窮世帯児童の学習支援を継続する。
 ④漲水学園は、卒園児の就職・進学に係る社会的自立支援を継続する。

3. 人材に対する姿勢

①事務局は、第2期経営計画の重点項目としてこれまで取り組んできた「人材育成」に関する総まとめとして、人材育成要綱、人事考課制度要領、キャリアパス制度要領、研修制度要領を制定し、次年度からの運用を目指し年度内で試行・見直し作業を終える。

②時間外勤務については、年度内での改善重点項目として掲げ各施設の課題を明確にし、事務局及び施設管理職が積極的に関わり改善に向けた取り組みを行なう。
 ③今年度から、介護・障害・児童・沖縄

療育園の区分により施設長等が執行理事に就任することから、これまでの法人全体での職員配置検討会を改め、各区分毎に検討会を開催、課題を抽出、考え方をまとめ、解決に向けた案を作成し、事務局協議を行い対応策を決定する仕組みとする。

②平成29年度は、第2期経営計画の最終年度となることから、事務局及び各施設は5カ年間の取組の総括を行う。
 ③次期経営計画の策定に向けては、各施設及び経営コンサルタントの参画のもと、事務局がとりまとめを行い、第3期経営計画（案）を作成する。
 ①介護施設で管理会計の手法を導入し課題を明確にして、具体的な経営改善に繋げる。

4. マネジメントに対する姿勢

平成29年度 資金収支予算書

(単位:千円)

勘定科目		法人全体		
		当年度予算額 ①	前年度予算額 ②	増減 ①-②
大区分				
事業活動収支	収入 事業活動収入	4,185,298	4,137,260	48,038
	支出 事業活動支出	4,088,452	3,958,950	129,502
	事業活動資金収支差額	96,846	178,310	△ 81,464
施設整備等収支	収入 施設整備等収入	181,785	59,869	121,916
	支出 施設整備等支出	411,804	265,221	146,583
	施設整備等資金収支差額	△ 230,019	△ 205,352	△ 24,667
その他の活動収支	収入 その他の活動収入	1,508,972	1,358,457	150,515
	支出 その他の活動支出	1,604,213	1,449,777	154,436
	その他の活動資金収支差額	△ 95,241	△ 91,320	△ 3,921
予備費		53,000	0	53,000
当期資金収支差額		△ 281,414	△ 118,362	△ 163,052
前期末支払資金残高		783,302	901,664	△ 118,362
当期末支払資金残高		501,888	783,302	△ 281,414